



—東地中海地域ニュース—

レバノン：イスラエルの対レバノン軍事行動の可能性 (1月20日付ムスタクバル紙)

1月20日付ムスタクバル紙は、現在訪仏中のハリーリ首相に対するル・モンドのインタビュー記事を引用し、同首相がイスラエルによる対レバノン軍事行動の可能性を懸念する旨を報じている。

1. 我々は、イスラエルの（軍事）行動を懸念している。先週、1日の間に25機ものイスラエル軍機がレバノン領空を侵犯した。イスラエルは、レバノン南部を攻撃しても、レバノン全土を攻撃するわけではなく、（ベイルート郊外の）ダーヒヤを攻撃しても、これはレバノンを意味するわけではないと考えているが、愚かなことである。2006年にイスラエルは何を行ったか。レバノンの全ての橋梁が破壊された。これはレバノン全土に対する攻撃ではなかったのか。
2. イスラエルは、如何なる（軍事行動の為の）口実をも用いることが出来る。イスラエルは、大義名分を必要としていない。イスラエルは、和平交渉の為に何もしておらず、和平交渉に関心を持っていない。(2002年にレバノンで開催されたアラブ首脳会議において)、アラブ諸国がアラブ和平イニシアティブを支持した。アラブ諸国が平和を望むとしているのに対して、イスラエルはどうするのであろうか。イスラエルは、平和を望んでいない。イスラエルは、パレスチナやシリアと前に進むことを望んでおらず、アラブ和平イニシアティブを拒否している。彼らはどうしようというのであろうか。
3. 我々は、イスラエルが過去に行ったような新たな紛争を作り出すことを懸念している。1982年に在英イスラエル大使が暗殺された後、イスラエルはレバノンに侵攻した。
このような（イスラエルによる）紛争が起きないことを自分（ハリーリ首相）は望んでいる。